

## 養老町に文化芸術発信の拠点を

本件の内容に、文化芸術的なことが含まれていないことが残念です。

養老町に山口俊郎記念館が 2004 年に建設されましたが、活用されず仕舞いになっています。一方、1994 年に建設された上石津の江口夜詩記念館は、今でも、市民に愛され皆が集まれる場として、コンサート等実施されています。

経済的に街を発展させることは重要です。同時に文化芸術を検討することは町民の心豊かな生活のために大切です。もし、山口俊郎記念館が、\*1 江口夜詩記念館のコンセプトで、建設運営されていたら、街のカタチ、イメージが変わっていたのだと感じています。

現在、新しい建物を建設する街づくりではなく、古い街並みを活用することで、街を魅力的にする動きがあります。例えば、身近なところで、羽島市、\*2 不二竹鼻町屋ギャラリーが挙げられます。それほど、大きな空間でなくとも、定期的に展覧会や講演会を実施することで、その街の文化芸術の拠点になります。立地的にも、交通の便が悪く、車道一方通行、駐車場は歴史記念館及び観光案内所と共有、しかも敷地は狭いですが施設を集中させ工夫して運営されています。

今ある養老町の建物を利用して、養老町の文化芸術を全国に発信できるような拠点を検討するきっかけとして、まずは現行の山口記念館の運営再開があると思います。検討事項は下記の通りです。

- ・当館専任学芸員の配置、岐阜県博物館美術館との連携
- ・年に 4 回程度の企画展の実施（例：内年 1 回は、象鼻山古墳の発掘出土品を少しずつ企画展示）
- ・養老町の全こども園等及び全小学校への出張授業及び養老町全幼児児童の施設見学の実施（年 1 回）
- ・養老町の文化芸術の調査研究
- ・研究テーマの講演会の実施
- ・当館の後援企業及び個人会員の募集

上記等予算化実施し、10 年計画で新しい文化芸術の発信地を検討することが有意義と考えます。10 年後、建造物を新たに建設するとしたら、上石津の江口記念館のように、立地場所、建造物への拘りは非常に重要です。または、養老町にまだある明治大正の建造物を博物館美術館化して文化芸術の拠点をすることも、街並み景観維持を考えても意義深いことと思います。

養老町の経済発展と文化芸術発信の拠点をづくり普及活動を続けることの両輪が、養老町の明るい未来へ繋がると熟考しパブリックコメントといたします。

\*1 江口夜詩記念館 <https://www.city.ogaki.lg.jp/ongaku/0000035180.html>

\*2 不二竹鼻街屋ギャラリー [https://www.city.hashima.lg.jp/soshiki/18-5-0-0-0\\_1.html](https://www.city.hashima.lg.jp/soshiki/18-5-0-0-0_1.html)